

3/3

南アルプスが破打つて見えた。
快晴の早朝、
富士が塩見岳の左腰上
うっぎ

2864 M

空木岳

池山屋根

5:28~5:40
5:24~5:26 岩山峠

中

イカレ
イカレ

4.45

至
越
すも
百山

9月19日早朝4:45出發
空本岳登頂後6:25に戻り
朝食後7:05に出發下山

ま夜中に谷田さんと外に出る
「宝石をまき散らしたように」の
言葉どおりの夜空だ。
何万と言う星の数が多過ぎ
て、星座の形を画くに戸惑う。
気温4℃ そよ風でも冷気
で寒い。星座は冬のオリオン
星座を中心に賑やかに輝く。
寒気と快晴の秋空の星は
キラキラと美しく研ぎすまされ、
北極星は見付けて戻る。
遠くの山は仄黒く静かに佇
んで眠っているのであろうか。

早朝 4時 45分に出発。東が白み、残月と白石の反射で電灯も消に登る。
ハイツ斜面を空身の軽さ、谷田さ速いこと、三浦さんが続き、私は記録をとりながらのいつもの3人の山登り。
丁頂上と間違えるほどの岩山峰が次々出現して戸惑う。それらの岩石の上を跳んではいけず、広い丁頂上の一隅に立って一望しているとすでに谷田さんは三角点から私たちを呼んでいる。憧れの空木岳は高く、一望千里の大展望である。

5時35分黄色に染まった空、赤い太陽が出始めると、黒い甲斐駒へ仙丈が岳の間から黄金の光が丁頂上の岩山峰を照し出す。岩はあかぬ色に光輝きその壮麗な光景は、わたしの心を感激の中に渦巻き、何とも言えぬ感動の世界へ導く。うしろの御岳へ乗鞍岳も朝陽を受けて美しく光輝き始めており、恵まれた朝結構。

金沢からの橋を渡り、河原で食事。
そこから登ると荒廃した東本谷小屋。
小屋のある箇所はやはりよい所。
ザーザーと湍音を聞きながら、
樹林で仄暗い斜面、岩盤をへ
つりながら登る。棧橋が沢山ある。

伊那川の清流と静寂な山々に引かれ、
中八丁峠へのきつい登りである。
小屋の息子さんから「一番おもしろい」と聞い
た水を飲み、水筒にも詰めて登る。
一気に登って峠に立てば、正面は御岳、
振り返れば今朝登った空木岳と、
すぐ右に南駒が岳～越百山の連山
が美しい盛り上がりを見せている。

伊那川の沢治いの道は
涼しく、落ちついた気分で歩
けるので「有難い、水も豊富。」

大洞で再び林道に出る。
ここより馬区まで親切な道
標が立てられているので、心
西に無く倉本へ着くことが
できた。

酒はいつも持参。
ビールと酒を飲み
ながら、月夜の広場
で電車を待つ。

2日間 秋の快晴の中で、千畳敷より空本岳までの
糸逆走も糸冬ってサッパリした気持ちだ。
目的を思いどおりできた達成感はいいものだ。
2年間のいつてこうかの？念願叶った喜びの帰りの。

